

# 農業農村整備事業等事後評価地区別結果書

|     |       |
|-----|-------|
| 局 名 | 九州農政局 |
|-----|-------|

|       |           |        |                            |
|-------|-----------|--------|----------------------------|
| 都道府県名 | 長崎県       | 関係市町村名 | みなみしまばらし<br>南島原市（旧南高来郡布津町） |
| 事業名   | 畑地帯総合整備事業 | 地区名    | ふつほくぶ<br>布津北部              |
| 事業主体名 | 長崎県       | 事業完了年度 | 平成22年度                     |

## 〔事業内容〕

事業目的：本地区は、長崎県島原半島の南東部の丘陵部に位置し、基幹作物である葉たばこを中心にいちご、はくさい等の野菜類を組み合わせた営農が行われている。

しかし、地区内の農地は、かんがい施設が未整備なうえ、狭小かつ不整形であるとともに、農道の幅員が狭いため、中・大型農業機械の導入が難しく、効率的な農業に支障を来していた。

このため、本事業により畑地かんがい施設の整備と併せて区画整理を行い、農業生産性の向上を図るとともに、担い手への農地集積を促進し、地域の農業構造の改善に資する。

受益面積：34ha

受益者数：146人

主要工事：畑地かんがい30ha、区画整理33ha

総事業費：1,227百万円

工 期：平成13年度～平成22年度（計画変更：平成22年度）

関連事業：なし

## 〔項 目〕

### 1 社会経済情勢の変化

#### （1）社会情勢の変化

本地域の総人口について、平成12年と平成27年を比較すると18%減少し、県全体の減少率9%を上回っている。

#### 【人口、世帯数】

| 区分   | 平成12年   | 平成27年   | 増減率  |
|------|---------|---------|------|
| 総人口  | 57,045人 | 46,564人 | △18% |
| 総世帯数 | 17,447戸 | 16,654戸 | △5%  |

（出典：国勢調査）

産業別就業人口については、第1次産業の割合が平成12年の26%から平成22年の25%に減少しているものの、平成22年の県全体の割合8%に比べて高い状況となっている。

#### 【産業別就業人口】

| 区分    | 平成12年   |     | 平成22年   |     |
|-------|---------|-----|---------|-----|
|       |         | 割合  |         | 割合  |
| 第1次産業 | 7,096人  | 26% | 5,986人  | 25% |
| 第2次産業 | 6,556人  | 24% | 4,817人  | 20% |
| 第3次産業 | 13,501人 | 50% | 13,096人 | 55% |

（出典：国勢調査）

#### （2）地域農業の動向

平成12年と平成27年を比較すると、耕地面積については10%、農家戸数は24%、農業就業人口は38%減少しており、65歳以上の農業就業人口についても33%減少している。

一方、農家1戸当たりの経営面積は45%、認定農業者数は2倍に増加している。

| 区分       | 平成12年    | 平成27年    | 増減率  |
|----------|----------|----------|------|
| 耕地面積     | 5,050ha  | 5,554ha  | △10% |
| 農家戸数     | 4,111戸   | 3,126戸   | △24% |
| 農業就業人口   | 7,202人   | 4,440人   | △38% |
| うち65歳以上  | 2,699人   | 1,820人   | △33% |
| 戸当たり経営面積 | 1.23ha/戸 | 1.78ha/戸 | 45%  |
| 認定農業者数   | 542人     | 1,084人   | 200% |

(出典：農林水産統計年報、農林業センサス、認定農業者数は長崎県調べ)

## 2 事業により整備された施設の管理状況

本事業により整備されたファーム Pond 等の畑地かんがい施設及びほ場内の排水路は布津北部土地改良区により、巡回点検・補修・草刈り等の日常管理が適切に行われている。

また、耕作道路や水路等の法面は、多面的機能支払交付金を活用し、非農家を含む地域住民が一体となり草刈り等の管理が行われている。

## 3 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

### (1) 農作物の生産量の変化

本事業の実施による安定的なかんがい用水の確保やほ場の大区画化に伴う大型農業機械の導入により、主要作物である葉たばこのほか、野菜指定産地に位置付けられているはくさいやいちごの作付面積は計画を上回っているとともに、新たにレタス及びほうれんそう等の野菜類やらっかせいも作付けされており、地区の生産量・生産額は大幅に増加している。

#### 【作付面積】

(単位：ha)

| 区分     | 事業計画（平成22年）   |    | 評価時点<br>(平成27年) |
|--------|---------------|----|-----------------|
|        | 現況<br>(平成12年) | 計画 |                 |
| 水稻     | 2             | 1  | 1               |
| 葉たばこ   | 20            | 21 | 22              |
| いちご    | 1             | 2  | 3               |
| はくさい   | 1             | 1  | 2               |
| ばれいしょ  | 0             | 1  | 1               |
| アスパラガス | 1             | 2  | 1               |
| ソルゴー   | 9             | 10 | 10              |
| みかん    | 4             | —  | —               |
| だいこん   | —             | 4  | 1               |
| かぼちゃ   | —             | 0  | 2               |
| レタス    | —             | —  | 1               |
| ほうれんそう | —             | —  | 1               |
| らっかせい  | —             | —  | 3               |

(出典：事業計画書（最終計画）、長崎県調べ)

※ 表中の「0」は1に満たないが僅かに作付があるもの、「—」は作付がないもの。

#### 【生産量】

(単位：t)

| 区分     | 事業計画（平成22年）   |     | 評価時点<br>(平成27年) |
|--------|---------------|-----|-----------------|
|        | 現況<br>(平成12年) | 計画  |                 |
| 水稻     | 6             | 4   | 5               |
| 葉たばこ   | 45            | 49  | 51              |
| いちご    | 36            | 84  | 120             |
| はくさい   | 46            | 53  | 196             |
| ばれいしょ  | 9             | 21  | 31              |
| アスパラガス | 22            | 32  | 13              |
| ソルゴー   | 548           | 671 | 533             |
| みかん    | 73            | —   | —               |

|        |   |     |    |
|--------|---|-----|----|
| だいこん   | — | 308 | 45 |
| かぼちゃ   | — | 3   | 31 |
| レタス    | — | —   | 20 |
| ほうれんそう | — | —   | 15 |
| らっかせい  | — | —   | 11 |

(出典:事業計画書(最終計画)、たばこ生産組合、J A 島原雲仙聞き取り)

【生産額】

(単位:百万円)

| 区分     | 事業計画(平成22年)   |    | 評価時点<br>(平成27年) |
|--------|---------------|----|-----------------|
|        | 現況<br>(平成12年) | 計画 |                 |
| 水稻     | 1             | 1  | 1               |
| 葉たばこ   | 86            | 94 | 105             |
| いちご    | 35            | 81 | 132             |
| はくさい   | 4             | 4  | 20              |
| ばれいしょ  | 1             | 3  | 4               |
| アスパラガス | 21            | 31 | 14              |
| ソルゴー   | 15            | 18 | 15              |
| みかん    | 11            | —  | —               |
| だいこん   | —             | 24 | 4               |
| かぼちゃ   | —             | 0  | 5               |
| レタス    | —             | —  | 3               |
| ほうれんそう | —             | —  | 6               |
| らっかせい  | —             | —  | 2               |

(出典:事業計画書(最終計画)、たばこ生産組合、J A 島原雲仙聞き取り)

※ 表中の「0」は1に満たないが僅かに生産額があるもの、「—」は生産額がないもの。

(2) 営農経費の節減

本事業の実施によるほ場の大区画化及び農道の拡幅に伴い、大型農業機械の利用・導入が可能になるとともに、安定的な用水供給に伴い、かんがい用水や防除用水の確保に係る労働が軽減され、農作業に係る労働時間等の節減が図られている。

【労働時間】

(単位:hr/ha)

| 区分    | 事業計画(平成22年)   |       | 評価時点<br>(平成27年) |
|-------|---------------|-------|-----------------|
|       | 現況<br>(平成12年) | 計画    |                 |
| 水稻    | 577           | 220   | 125             |
| 葉たばこ  | 3,075         | 1,315 | 1,340           |
| はくさい  | 1,580         | 1,355 | 1,400           |
| ばれいしょ | 1,095         | 685   | 610             |
| ソルゴー  | 710           | 180   | 180             |

(出典:事業計画書(最終計画)、長崎県調べ)

【機械経費】

(単位:千円/ha)

| 区分    | 事業計画(平成22年)   |     | 評価時点<br>(平成27年) |
|-------|---------------|-----|-----------------|
|       | 現況<br>(平成12年) | 計画  |                 |
| 水稻    | 1,710         | 76  | 80              |
| 葉たばこ  | 1,088         | 482 | 510             |
| はくさい  | 359           | 167 | 176             |
| ばれいしょ | 744           | 412 | 436             |
| ソルゴー  | 809           | 346 | 369             |

(出典:事業計画書(最終計画)、長崎県調べ)

#### 4 事業効果の発現状況

##### (1) 事業の目的に関する事項

###### ① 農業生産性の向上

本事業の実施による安定的なかんがい用水の確保により、適期・適切なかん水や防除が可能となったため、本地区の主要作物である葉たばこの他、はくさいやばれいしょで事業実施前（現況）に比べ単収が増加しており、農業生産性の向上が図られている。

なお、いちごについては、当初計画していた品種（さちのか）から、近年の市場動向等を受け、より単価の高い品種（ゆめのか）に移行したため、単収は現況を下回っている。

【単収】 (単位：kg/10a)

| 区分     | 事業計画（平成22年）   |       | 評価時点<br>（平成27年） |
|--------|---------------|-------|-----------------|
|        | 現況<br>（平成12年） | 計画    |                 |
| 水稻     | 353           | 353   | 473             |
| 葉たばこ   | 221           | 239   | 231             |
| いちご    | 4,048         | 4,655 | 3,993           |
| はくさい   | 7,708         | 8,864 | 8,925           |
| ばれいしょ  | 2,308         | 2,654 | 2,564           |
| アスパラガス | 1,687         | 2,024 | 1,681           |
| ソルゴー   | 5,828         | 6,994 | 5,282           |
| だいこん   | —             | 7,519 | 7,432           |
| かぼちゃ   | —             | 2,636 | 1,430           |

（出典：事業計画書（最終計画）、たばこ生産組合、JA島原雲仙聞き取り）

##### (2) 土地改良長期計画における施策と目指す成果の確認

###### ① 産地収益力の向上

本事業による安定的なかんがい用水の確保により、本地区の主要作物である葉たばこ生産が維持されるとともに、ほうれんそうやかぼちゃ等の野菜が新たに導入されるなど、高収益作物の作付が進行している（高収益作物の生産額が158百万円から277百万円へと1.8倍に拡大）。

さらに、いちごにおいては、当初計画していた品種（さちのか）から、近年はより単価の高い品種（ゆめのか）に転換しており、農家所得の向上が図られている。

###### ② 担い手の体質強化

本事業による農業生産基盤整備に伴い、地区内の担い手（認定農業者）への農地集積は計画を若干下回っているものの、集積面積及び集積率とも事業実施前（現況）に比べて上昇している。

【担い手への農地集積】 (単位：ha、%)

| 区分     | 事業計画（平成22年）   |        | 評価時点<br>（平成27年） |
|--------|---------------|--------|-----------------|
|        | 現況<br>（平成12年） | 計画     |                 |
| 農地集積面積 | 8.1ha         | 15.2ha | 13.9ha          |
| 農地集積率  | 24.5%         | 45.9%  | 42.1%           |

（出典：長崎県調べ）

##### (3) 事業による波及効果

本事業の実施に伴い農業生産性の向上と併せ農地集積が促進され、主要作物である葉たばこの移植や、いちごの定植等に係る作業において新たに雇用を拡大し、38名の臨時雇用が創出された。

##### (4) 事後評価時点における費用対効果分析の結果

妥当投資額 1,597百万円

総事業費 1,446百万円

投資効率 1.10

(注) 投資効率方式により算定。

## 5 事業実施による環境の変化

### (1) 生活環境

区画整理に伴う農道の拡幅や線形の改良により、車両が通行しやすくなったため、農作物の集出荷や通作のみならず、生活道路としても利用され、周辺住民生活の利便性、安全性の向上が図られている。

### (2) 自然環境

区画整理による地区内の土地利用の秩序化により、良好な農村景観が維持されるとともに、本事業を契機にした地域住民の環境保全への関心の高まりを受け、多面的支払交付金を活用し、農道等の法面に「シバザクラ」や「アジサイ」の植栽を行うなど、良好な景観を保全する取組が実施されている。

## 6 今後の課題等

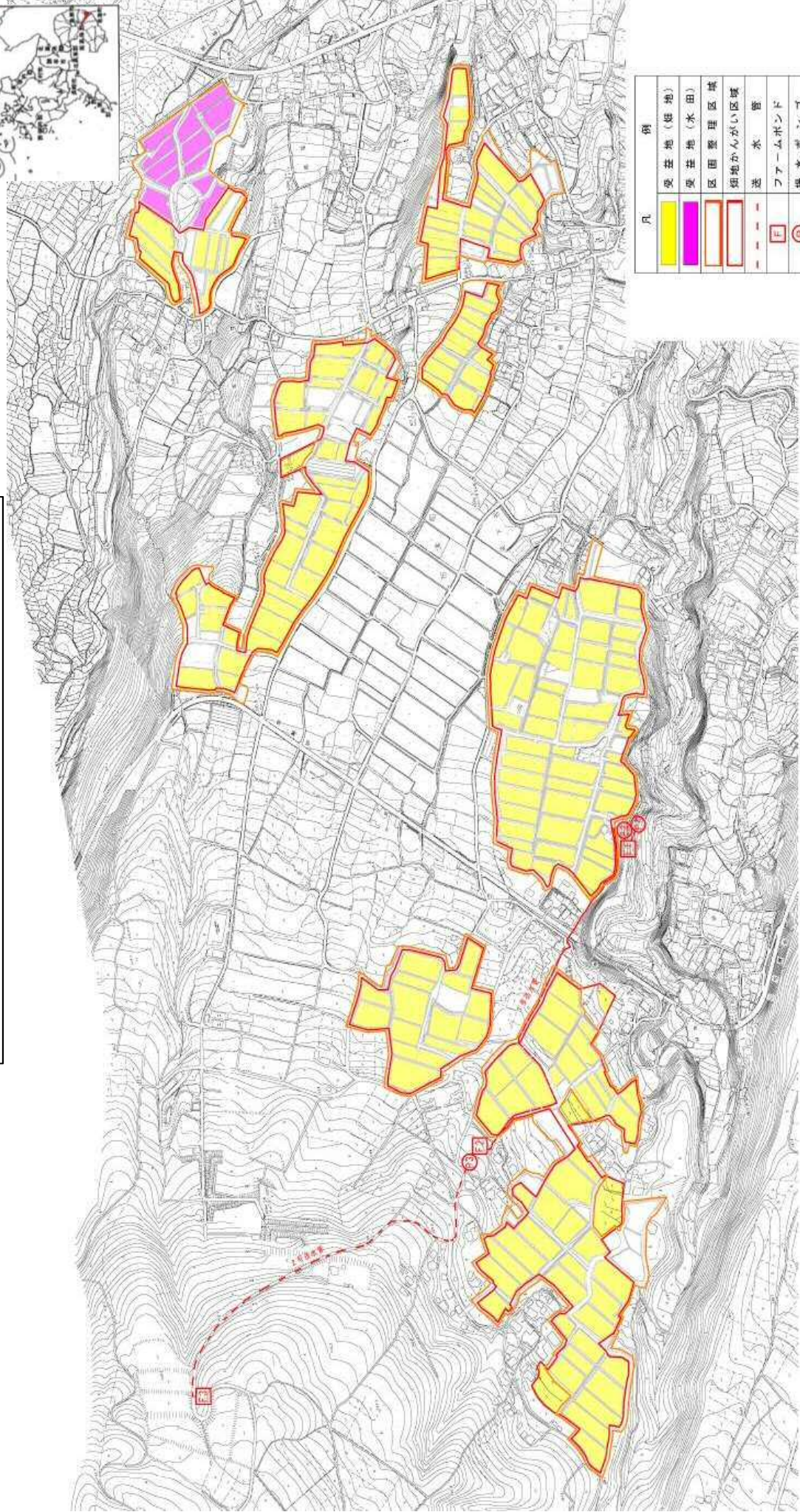
本事業による安定的なかんがい用水の確保や作業効率の向上により節減された労働時間を活かし、多品目の高収益作物が導入されるようになった。

今後も主要作物である葉たばこを中心に需要動向の変化に対応した高収益性作物を組み合わせた営農を継続していくため、整備された施設の適時適切な管理・補修による施設機能の維持や必要に応じた新たな施設整備のみならず、地元関係機関と連携した栽培技術の向上などの取組が必要である。

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事後評価結果 | <p>本事業の実施により、地区の主要作物である葉たばこの生産維持や野菜等の高収益作物の新たな導入とともに、いちごにおける単価の高い品種への作付転換が進んでおり、農家所得の向上が図られている。</p> <p>また、地区内の担い手（認定農業者）への農地集積が事業実施前に比べ進み、より効率的な営農が可能となっており、担い手の体質強化が図られている。</p> <p>今後は、葉たばこを中心に需要動向に応じた高収益性作物を組み合わせた営農を継続していくため、整備された施設の適時適切な管理・補修による施設機能の維持や必要に応じた新たな施設整備のみならず、関係機関と連携した栽培技術の向上などの取組が必要である。</p> |
| 第三者の意見 | <p>事業の実施により、ほ場の区画の整形化や拡大が図られ、大型農業機械の導入が進み作業効率が向上したこと、地区内の担い手への農地集積が進んだこと、かんがい施設の整備により栽培面積拡大や葉たばこを中心にいちごの高品質化を図り農業経営が向上するなど、評価できる。</p> <p>今後とも、発現している効果を維持・向上させるため、整備した施設等の適切な維持管理が望まれる。</p>                                                                                                                       |



# 畑地帯総合整備事業 布津北部地区 概要図



| 凡        | 例        |
|----------|----------|
| 畑地帯 (畑地) | 畑地帯 (畑地) |
| 畑地帯 (水田) | 畑地帯 (水田) |
| 区画整理区域   | 区画整理区域   |
| 畑地かんがい区域 | 畑地かんがい区域 |
| 送水管      | 送水管      |
| ファームポイント | ファームポイント |
| 排水ポンプ    | 排水ポンプ    |